

# 目的に合わせた授業モデル

心理学部 教授  
教育心理学博士 石川清子

1月30日に行われた中島総長先生のご指導による臨床心理士・公認心理師試験対策授業に関する感想としては、多くある中から次の点に焦点を置き述べていく。それは、学生・院生の学習目的に合わせた授業モデルを使い分けられる教員は彼らの利益になる人材であるという事である。つまり、臨床心理資格試験や国家資格試験等の学習方法と、学問の神髄を追求研究する授業方法とは別の学習方法が当然必要であるという事である。

本講座では、主として前者の授業モデルについて研修ができた。この資格試験授業モデルは、単純明快なプロセスで構成されており、院生さん達も十分に理解できたのではないだろうか。また、個人学習に至っても1日のうちに時間が少しでもある時に「問題と解答解説を読み・理解し・暗記する」事を、何度も繰り返し、長期記憶に定着させるという事である。例えば「夜寝る前にこの作業を集中して何度繰り返し、朝起きたらもう一度と行っていけば合格できる」というものである。ここで重要なことは、常日頃から授業モデルを使い分けて簡潔明瞭な指導をしている教員が述べる「教科書を読み・理解し・暗記する事を繰り返し行っていだけで合格できる」という確かな言葉の存在であろう。

まさに学生・院生の将来目的を全うするための指導支援のあり方は、現代社会を鑑みると、高等教育機関においても教鞭をとる教員として、重要な教員の質を問う要因となるであろう。講義中の解説では、大学教員の在り方と、予備校教員の比較をしつつ説明がなされていたが、確かに予備校教員にとっては受験問題・資格試験問題を理解させ合格させる事が面前にあり、学生がそれらの問題をどのような学習スキルを使って効率よく答えて行くかという学習プロセスを習得させる指導を実施しているのである。大学教員の場合、特に大学院において修士課程後期の授業に至って、やっと学問を身近に感じるようになる授業を展開する事になるということである。確かに、この見解は私にとっても納得のいく指摘であった。各学問的分野において研究者として学者として生きていこうとする人たちが対象となる授業モデルと到達するわけである。

最後に、今後の私自身の授業にどのように今回の研修を生かしていけるかという事を述べ、まとめとする。私は今後、この授業モデルの使い分けをしっかりと行っていきたい。学部の授業と修士課程前期の学生さん達においては、彼らの将来目標が実現可能になる授業モデルを実施していきたい。特に本学の在籍学生さん達の認知的、パーソナリティ特性を十分に配慮し、重要なポイントに焦点を置いた簡潔な授業を実施する。また、修士課程前期に在籍していても修士課程公開を目指している院生に対しては、私自身のミシガン大学における博士課程の体験的、学問的な知見と現在に至るまでの人間理解に関わる研究の変遷を惜しみなく伝えていきたい。